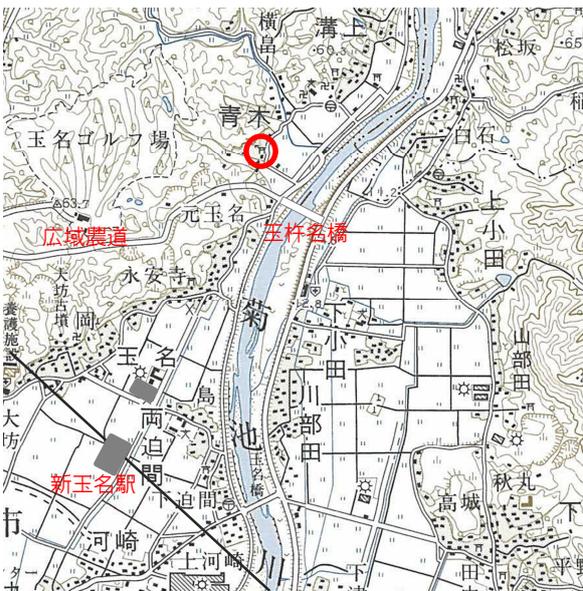




梵字群は、玉名市青木に所在する熊野坐神社境内にあります。鳥居を潜った社殿の左側には高さ 10mにも及び阿蘇溶結凝灰岩の崖面があり、長さは約 60mもあります。その崖面の南側約 15mにわたって、大きな梵字などが約 13 か所以上も陰刻されています。これらは、主に鎌倉時代の作といわれていますが、南北朝時代や室町時代頃までと幅広い説があります。一説には、唐僧・三蔵法師の作とも伝わっており、近くに三蔵川も流れています。これらは文字だけのように見えますが、実は阿弥陀三尊や不動明王といった仏を表現した配置となっています。

壮大なスケールで表現された仏の世界

静寂した神社に一步入ると、その圧巻に誰もが驚く！



青木磨崖梵字群の位置図



ご神木のナギ(市天然記念物)

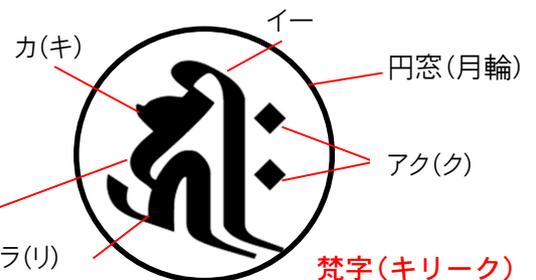
熊野信仰においてナギはご神木で、災禍を「なぎ払う」といわれます。樹齢は約 400 年とされ市内最大。ナギの前に空洞の祠があり、木も祀られています。



青木磨崖梵字群がある熊野坐神社



薬研彫りの断面

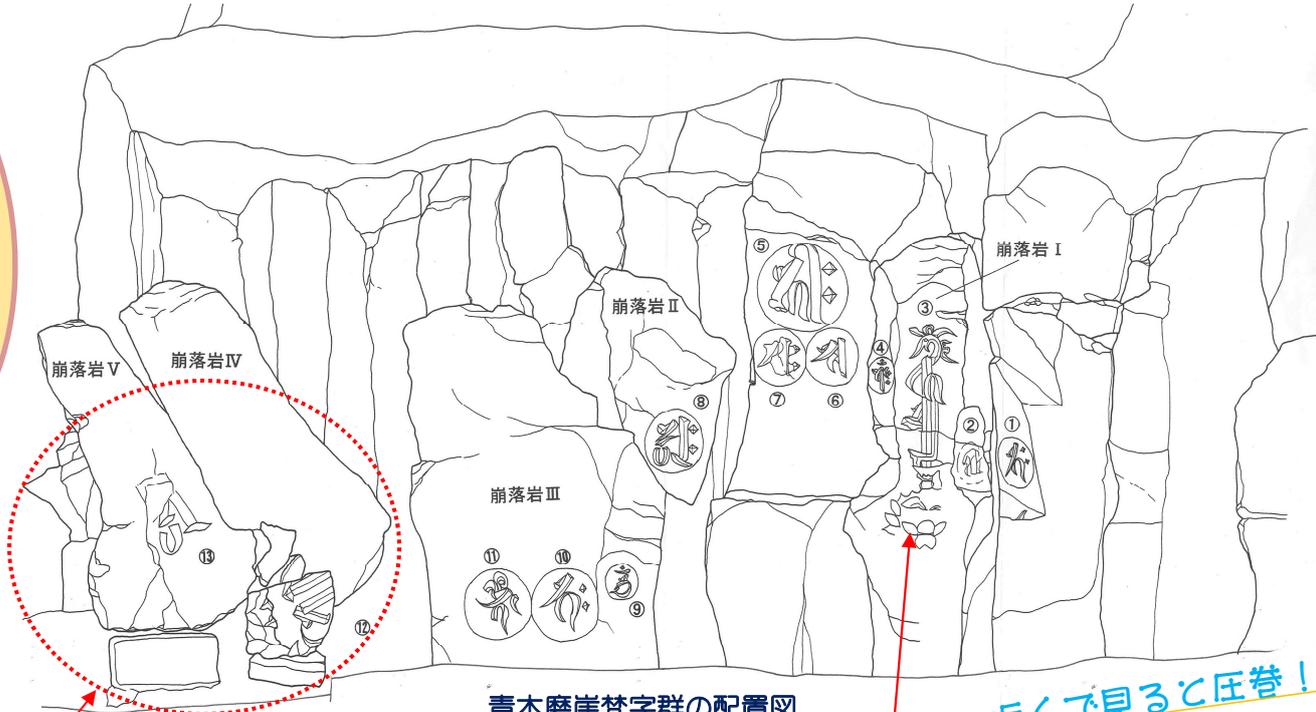


梵字とは「種子」ともいい、一字で仏を表現します。本来はインドの文字であり、サンスクリット語が起源とされ、アルファベットのような表音文字でした。仏教と共に日本へ伝わると、さらに神聖化されていきました。平安時代になると真言宗などの仏教が広がると共に一般にも浸透していき、中世の五輪塔や板碑などにはよく刻まれています。梵字は密教との関係が深く、真言系や天台系の修験者たちが各地域から山岳修行に訪れたようです。このうちの僧侶たちが梵字を彫りはじめると、ここが聖地となっていき、代々信仰されてきたと考えられています。

岩盤は、阿蘇山の噴火によってできた凝灰岩じゃが、柱状節理という現象で一部は崩落してるんじゃない！残念！



人間の大きさ



青木磨崖梵字群の配置図

近くで見ると圧巻！

ここにも本来 10 数点の梵字が！

梵字群の中心

阿弥陀三尊

空
風
火
水
地

愛知県の性海寺に同類の双円塔がある。梵字を五輪塔形に表現したもの。

双円性海塔

ベイ 薬師如来

バク 釈迦如来

アグ

サク 勢至如来

サ 観音菩薩

アーク 大日如来

1m超え 最大梵字

不動明王の化身
不動明王が持つ剣に龍が巻きついたような様子を表現。

キリク 阿弥陀如来

バク 釈迦如来



薬師如来



釈迦如来



勢至菩薩



阿弥陀如来



観音菩薩



不動明王

これら梵字群の配置は大きく3～4つの時期に分類され、書体や石工たちの技法の違いがみられます。長い年月をかけて、この壮大な仏の世界が演出されてきたといえるのです。

最も高い位置に、阿弥陀三尊を表現する「キリク・サ・サク」が彫られ、その横には、長さ、1.9m、幅 1.4mの不動明王を表現する「カン」などがあり、その他に各種仏、菩薩の梵字が陰刻されています。梵字は深いV字形に彫りこまれた「薬研彫り」で、その書体は見事です。さらに、梵字部分には赤色顔料の痕跡も一部確認されていることから、完成当時は、赤色に梵字が浮かび上がっていた可能性があります。

これらの梵字群は彫り方や書体によって、いくつかのグループに分類することができます。特に高い位置にある阿弥陀三尊は、円窓の彫りこみも約 3 cmと深く、梵字の中はノミ痕が残るため、最も古い段階と考えられます。その後、最盛期になると、梵字の中も研磨され、滑らかになります。衰退期になると、薬研彫りのV字の底が甘くなったり、文字も鋭利さがなくなっていくという変遷がみられます。少なくとも、鎌倉時代前半頃(13世紀前葉)から室町時代頃(15世紀)までのうち、3～4時期に渡って梵字群が彫られ、現在の配置に至っていると考えられています。